



今月は、本好きの人たちの集まり「読書友の会」の皆さんをご紹介します。

阿蘇読書友の会

阿蘇市内には、阿蘇読書友の会と一の宮町読書友の会があります。活動は、会員の交流以外に文化講演会を企画したり、研修会や文学散歩をするなど、阿蘇市全体が本に親しむ環境づくりにも取り組まれています。

読書友の会の歴史は古く、図書館の歩みとともに活動が刻まれてきました。近年、テレビなどの普及で本への関心

が薄れていますが、そんな時代だからこそ、本の作者から学ぶ知識、また心に染み入る感動や発見から情操教育を見直そうと活動を続けられています。

「図書館をもっと生活の一部として利用してもらいたい！」

友の会の皆さんは、無料でたくさん情報を得ることができ、図書館をもっと市民の皆さんに利用して欲しいと願われています。阿蘇市の図書館にはいろんなジャンルの本がたくさん置いてあります。移動図書館車でお近くまで本が届きます。読書を習慣にしましょう。



文学散歩で作者の足跡を辿る

友の会の活動の一環で、11月14日、「与謝野鉄幹・晶子を訪ねて」と題して、昭和7年に二人が宿泊した内牧の旅館蘇山郷と周辺を散策しました。与謝野夫妻と関わりのあったおじい様にかわりお孫さんの永田忠彦さんが、当時のことを説明され、二人が阿蘇を詠んだ短歌やお礼の手紙、文学碑などを見て文学を楽しみました。

講演会の開催で読書を推進

「若い人たちに特にすすめてほしい」

友の会主催の講演会を10月20日、阿蘇図書館で開催し、中川實さん（元阿蘇町教育長）が、「読書のよろこび」～本との出会い・人との出会い～と題して講演されました。

小林一茶、石川啄木、森鷗外など文豪たちの話から始まり、「若い人はどんどん本を読んで欲しい」「若い時に読んだ本の内容はいつまでも心に残っている」と、ご自分の体験から話され、青春時代は恋愛小説も読んだし人生の流れとともにその時その時出会った本が心の糧となっていると述べられました。今一番好きな作家という藤沢周平さんの作品の見所も話されました。

- ・ 日常の世界から離れて独特の世界に入れる本の魅力を再確認しました。
- ・ 昔読んだ本は懐かしい、若い時にもっと読むべきだった。
- ・ サスペンスものばかり読む私ですが、人生観のある本が読みたくなりました。
- ・ 本を読むことでいろいろな世界が開けるような気がしました。
- ・ 余生を最後まで読書などで教養に努めるつもりになりました。

読書講演会の参加者のアンケートより

